

ニチハ・アイカ モエン大壁工法

施工仕様書

平成24年9月 改訂

アイカ工業株式会社
化成品カンパニー

モエン大壁工法

1. モエン大壁工法

「モエン大壁工法」とは、大壁専用板(モエンパネル)に特殊な目地処理を施し、可とう性タイプのジョリパットネオ(品番:JQ-650 又は JQ-700)を厚付け施工することにより、目地部を見えにくくする工法です。完全な目地消し仕上げとはなりませんのでご注意ください。

また、下地組みから塗装まで、細心の注意と熟練した技術が必要となります。従って、ニチ八株式会社の認定施工店及びアイカ工業株式会社の認定施工店による施工が必要となります。

本工法で目地を隠す処理が可能な部位は、「平面部の縦目地」、「切妻部の横目地」、「出隅部の縦目地」です。

「1 - 2および2 - 3階部の横目地」、「入り隅部の縦目地」、「開口部周辺目地」についてはシーリング目地をとった上で、化粧目地 仕様となります。

仕上げパターンにおいては、目地部分をわかりにくく、かつパネルの動きに追従する厚みのあるものにする必要があります。指定可とう性塗材(ジョリパットネオ JQ-650 又は JQ-700)による指定仕上げパターンに限定されます。

指定仕上げパターンでの塗装においても、陽の当たり方(斜光)によって目地処理範囲の不陸が影となって見える場合があります。

下地はモエンパネル EX(EMX100、EMX100S:14mm 厚)またはモエンパネル W(WLX100、WLX100S:14mm 厚)のモエン大壁工法専用板となっています。

化粧目地とはシーリング目地部分を塗材下塗り、乾燥後に養生テープでマスキングし、上塗り直後に養生テープをはがして形成させる塗材の凹み目地です。(4-9 参照)

地 域	沖縄をのぞく全国
構 造 (1)	木造軸組構造、木造枠組壁構造、木質パネル、鉄骨造(2)
階 高	13m以下、かつ3階建て以下
用 途	戸建て住宅、店舗、集合住宅

(1) スチールハウス構造、外張り断熱工法については施工仕様が異なります。

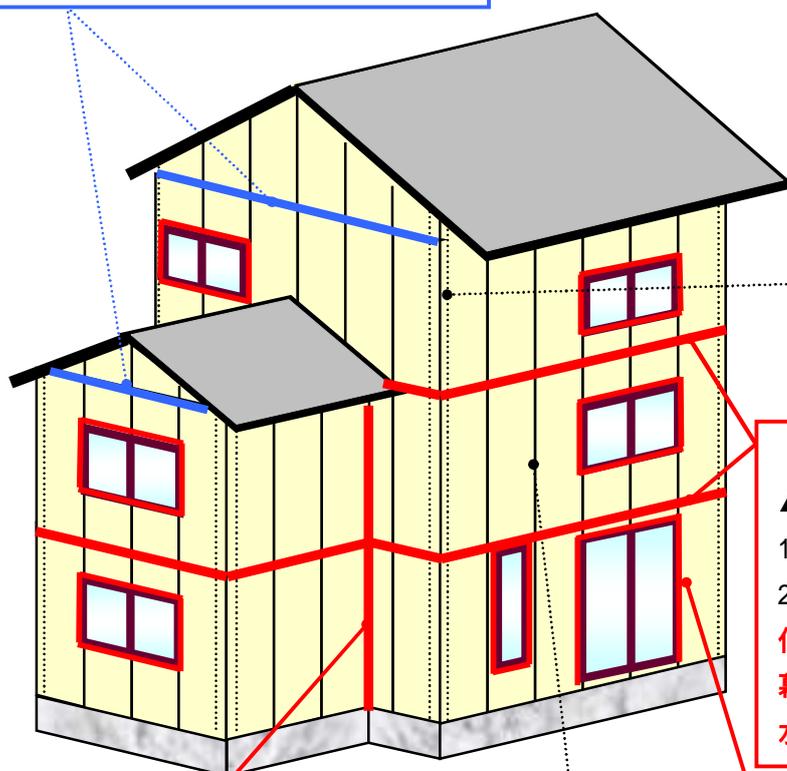
ニチ八株式会社営業所へお問い合わせ下さい。

(2) 鉄骨造:C型鋼75×45×厚み1.6mm以上(縦組み、横組み@606mm以下)

の上に木胴縁33mm厚の直交組みとなります。

1 - 2 . 各接合部の目地処理

< 切り妻部横目地 >
最上段のモエンパネルの高さが
1820mm 以下の場合のみ目地消し仕様可能



< 出隅部縦目地 >
(出隅サイディング接合部)
目地消し仕様



1-2 階横目地 (モエンパネル 1-2 段目)
2-3 階横目地 (モエンパネル 2-3 段目)
化粧目地仕様
幕板仕様 (ニハ仕様書参照)
水切り仕様 (ニハ仕様書参照)

入隅部縦目地
(入隅モエンパネル接合部)
化粧目地仕様 (シーリング処理)

平面部縦目地
(一般モエンパネル接合部)
目地消し仕様

開口部周辺目地
(モエンパネル / サッシ接合部)
化粧目地仕様 (シーリング処理)



1-2 階部および 2-3 階部横目地において、化粧目地仕様とする場合は、ネオウレタンシーリングが充填された部位上に、JF-900R を施し、化粧目地仕様とする。

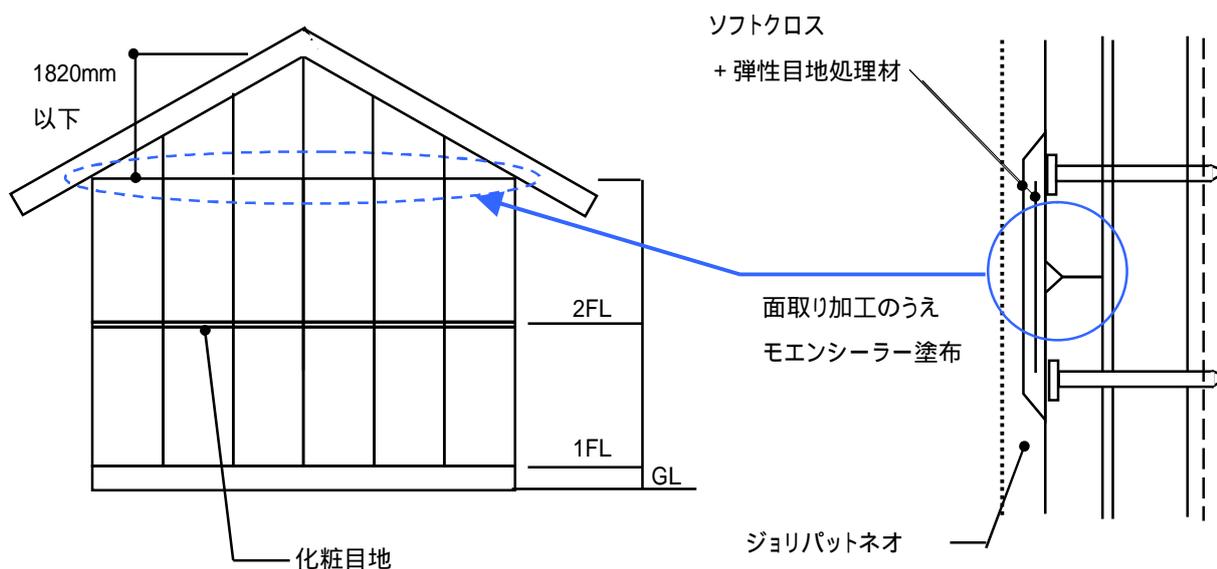
モエン大壁工法

1 - 3 . 切り妻部横目地、1 - 2階部 / 2 - 3階部 横目地 について

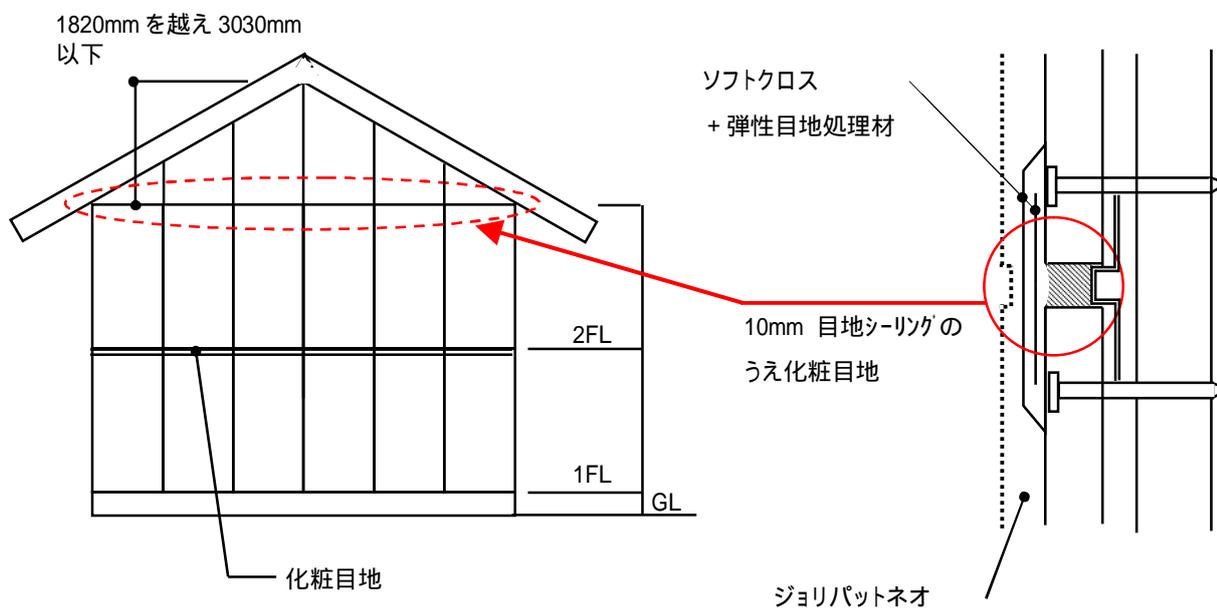
妻部(最上段のモエンパネル)の高さが1820mm以下の場合にのみ目地消し仕様とすることができます。

目地消し仕様にする場合は、2階建ての場合2段目と最上段のボード、3階建ての場合3段目と最上段のボード上下接合部の面材端部を2×2mm程度面取りをし、突き付けて接合します。

屋根裏部屋がある場合でも妻部が1820mm以下であれば目地消し仕様とすることができます。



妻部3段目の高さが1820mmを越え、3030mm以下の場合は、10mm幅のシーリング目地を設け、化粧目地仕上げとします。

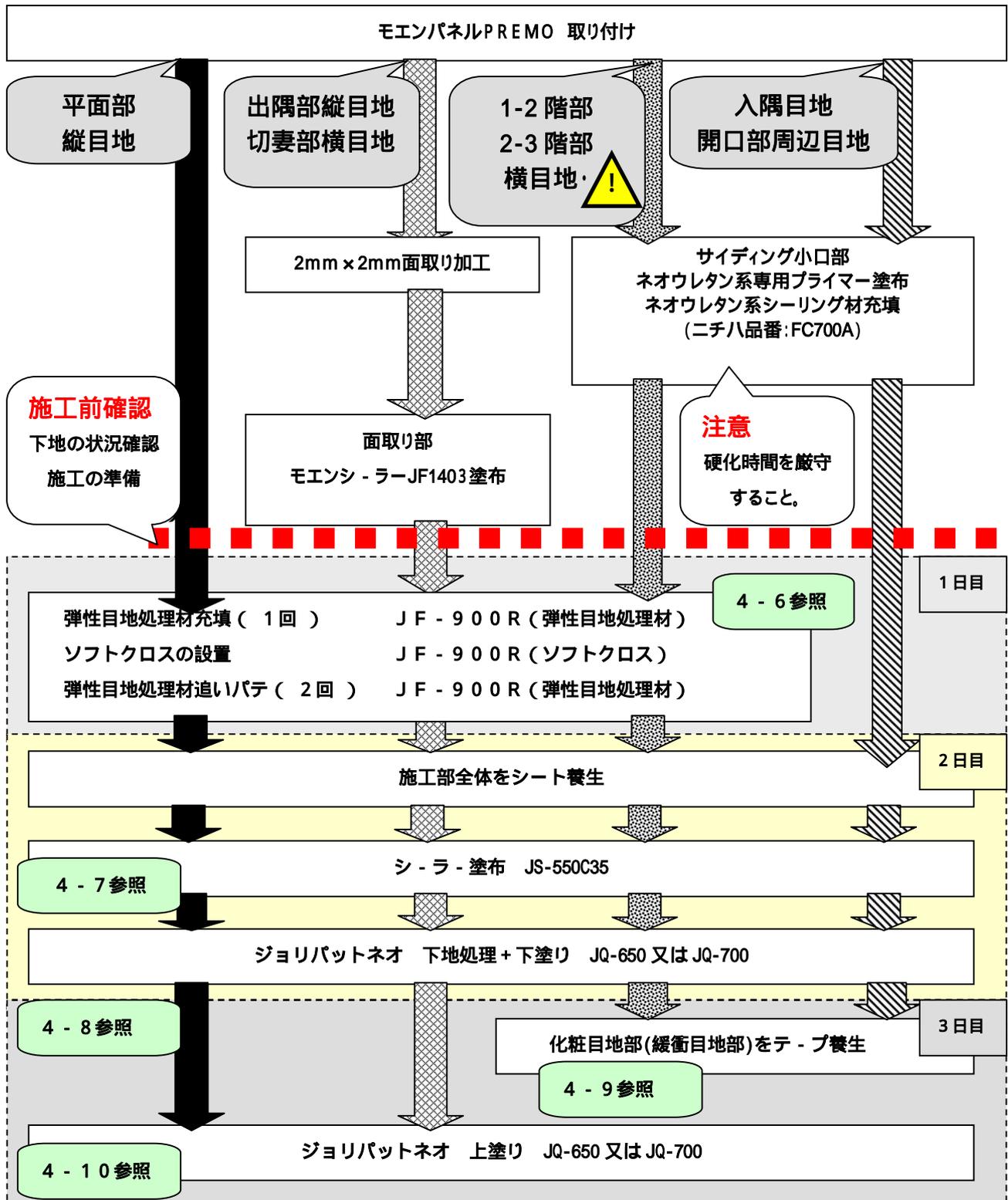


モエン大壁工法

2. 使用材料

材料名	品番	荷姿		製造会社	材料成分
大壁工法専用 弾性目地処理材	JF-900R		320ml/本 8本/梱包	ニチハ(株)	ポリチオウレタン系 弾性目地処理材 (1成分型)
大壁工法専用 ソフトクロス			50mm幅×25m 2巻/梱包		ソフトクロス ポリエステル製 特殊ネット
大壁工法専用 ソフトクロス	JF-901		50mm幅×25m 20巻/梱包		ソフトクロス ポリエステル製 特殊ネット
大壁工法 弾性目地処理材用 カートリッジ	JF-900K		8個/梱包		JF-900R用 カートリッジ
大壁工法専用 ジョリパットシーラー (青色着色品)	JS-550 C35		16Kg/缶	アイカ工業(株)	1液型水系 アクリルウレタン
ジョリパットネオ	JQ-700		20Kg/缶		アクリル系 水性仕上げ塗材
ジョリパットネオ	JQ-650		20 Kg/缶		アクリル系 水性仕上げ塗材

3. 大壁工法 フローチャート



1-2 階部および2-3 階部横目地において、化粧目地仕様とする場合の施工方法です。
幕板仕様又は水切り仕様とする場合は、ニチハ(株)の仕様書に基づいて施工下さい。

4. 施工要領

4 - 1 大壁工法の取組み

モエン大壁工法を採用するにあたり必ず建設会社、ニチ八(株)、アイカ工業(株)の 3 社により、仕様を確認し合意のもと進める。

4 - 2 ボードの張り方

モエン大壁工法の標準仕様に準拠して施工する。

4 - 3 塗装準備

現場下見を行い、大壁工法専用板の施工終了を確認する。

電気、水道の有無を確認する。

適正な下地になっているか確認し、不具合点を塗装工事記録(別紙)に記入する。また、不具合点は、是正させる。

隣家・駐車中の車等に飛散しないか確認する。

4 - 4 養生

ジョリパットネオを施工する前に建物周囲をシート養生し、塗材が近隣周辺に飛散しないようにする。

ジョリパットネオを施工する際、作業員は、塗材が飛散しないよう気をつけて作業を行う。万一近隣へ飛散し、損害を出した場合は、速やかに塗装作業者の責任において現場管理者に報告の上、処理を行う。

工事中は周辺部の他の部材及び仕上げ面を汚損しないよう適切な養生を行う。

4 - 5 気象条件

風速 5m / s 以上の強風は仕上げ塗材の塗膜の付着効果を低下させたり、ムラ・皮張り等仕上げに悪影響を及ぼす為、作業を中止するか周辺シート養生を必ず行う。

降雨が予想される場合は施工を中止する。施工作業前 24 時間と施工完了後、塗膜が乾燥するまでは、降雨が壁面にあたらないようにする。

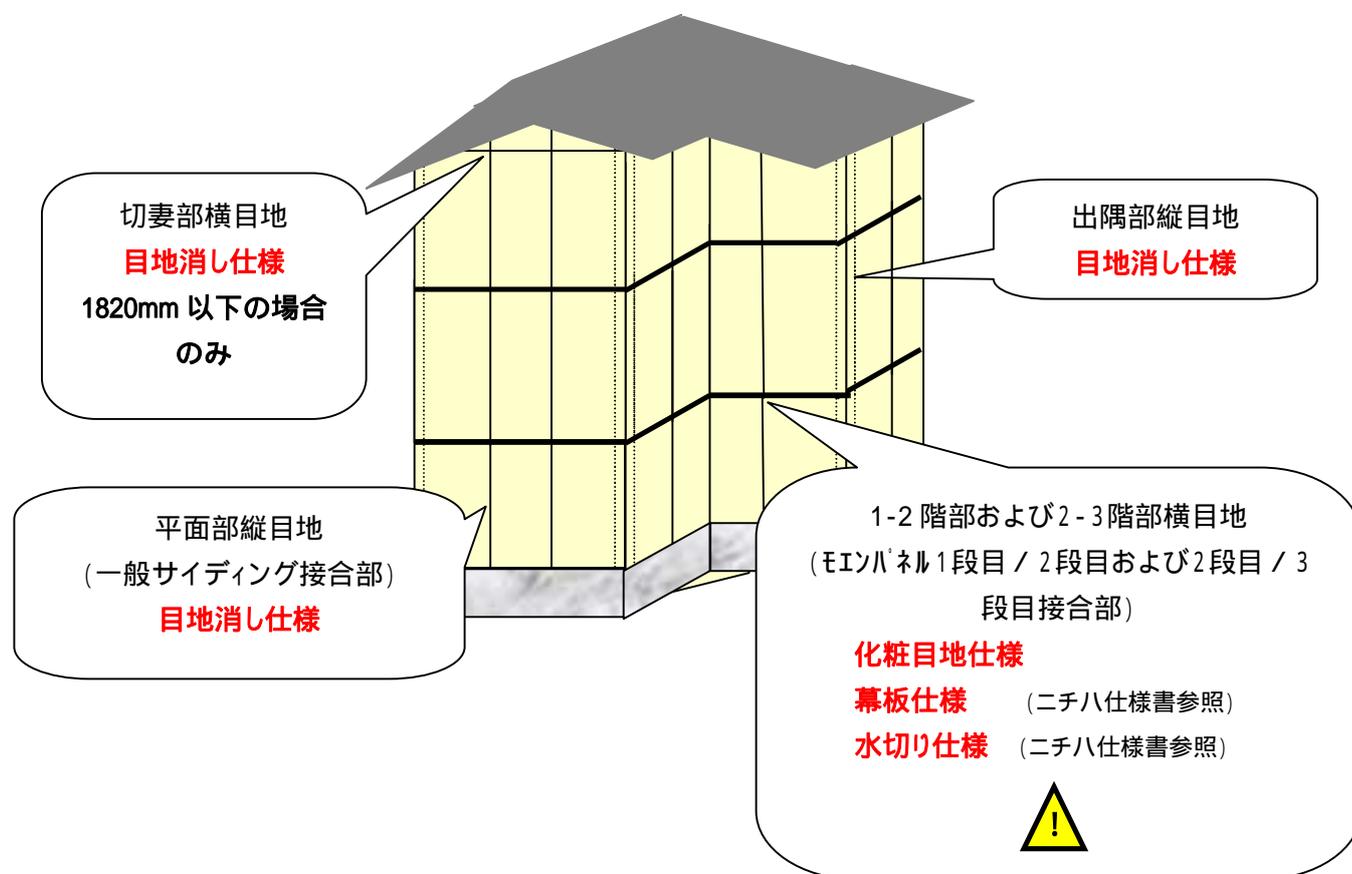
気温 35℃、被塗面 45℃ 以上の場合は粘度低下・塗膜のダレ・泡吹き・縮み・ひび割れ等の現象を起こす為、ジョリパットネオ施工前に周辺シート養生を必ず行う。

気温 5℃ 以下の場合は、塗膜の成膜性や性能面、及び作業性において支障がある為、作業を中止する。

モエン大壁工法

4 - 6 弾性目地処理材 JF - 900 R による目地処理

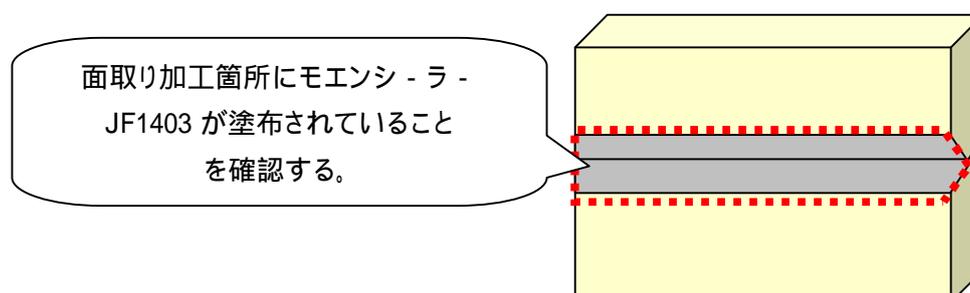
(平面部縦目地・切妻部横目地・出隅部縦目地・1-2 階および 2-3 階上下接合部横目地(化粧目地))



1-2 階部および 2-3 階部横目地において、化粧目地仕様とする場合は、ネオウレタンシーリングが充填された部位上に、JF-900R を施し、化粧目地仕様とする。

切妻部横目地における前処理確認

サイディングとサイディングの突付け部分が、2mm × 2mm 程度の大きさにて面取り加工され、加工部位にモエンシ - ラ - (JF1403) が塗布されていることを確認する。

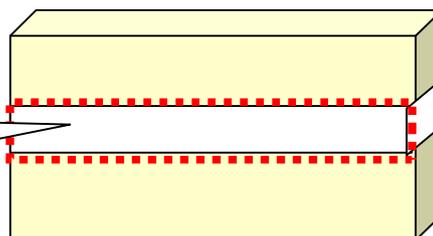


モエン大壁工法

1 - 2階部および2 - 3階部横目地における前処理確認

目地部にモエン大壁工法専用ネオウレタン系シーリング材(FC700A)が充填され、充分硬化していることを確認する。

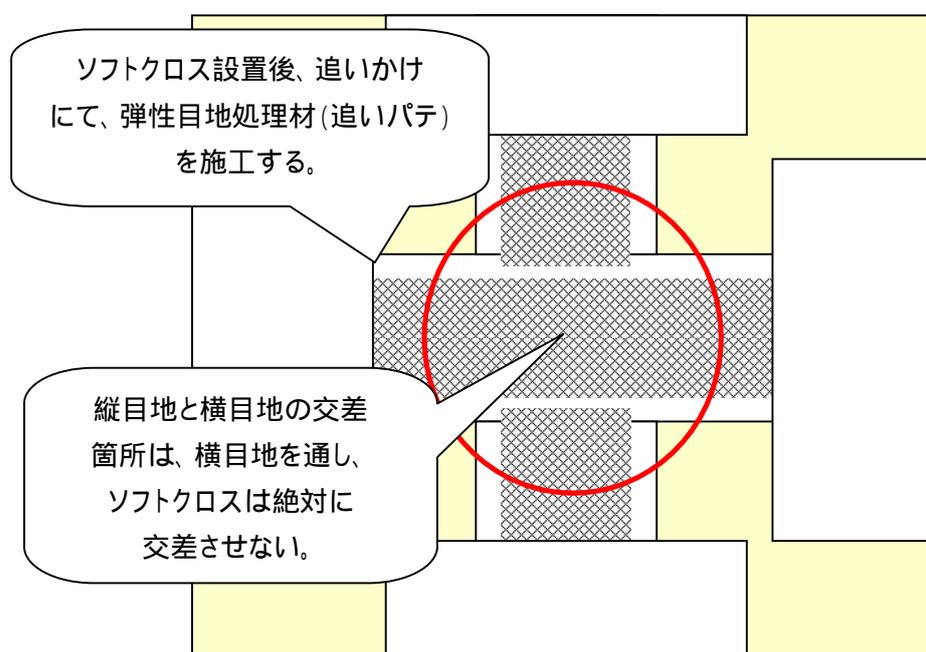
専用シーリング材が
充分硬化していることを確認する。



JF-900R (弾性目地処理材・ソフトクロス)による目地処理

- 24時間以上降雨がなく、目地が充分乾燥していることを確認の上、作業にかかる。
- 接合部、及び接合部周辺部位の塵、ゴミ、油分を、乾いたウエス等で落とす。
- 弾性目地処理材は、接合部に隙間無く充填し、ヘラで15～20cm幅の範囲に薄く広げる。
- ソフトクロスの中心を接合部に合わせて設置し、ヘラの端部で押しならして板面に密着させる。この時、ソフトクロスによじれがないように注意する。
- 前工程終了後、追いかけて、再度目地処理材をクロスの上に盛り、ヘラでならしてクロス完全に被覆する。この時、目地処理の層が1mm以内となる様ヘラで平滑にする。
- 平面部の縦目地と切妻部又は1-2階部の横目地が交差する部位は、ソフトクロスを重ねず、横方向を通す。

使用材料	工程間隔		弾性目地処理材 使用量
	5 ~ 10	10 以上	
弾性目地処理材(1回目)	追いかけて	追いかけて	3 ~ 5m/本
ソフトクロス	追いかけて	追いかけて	
弾性目地処理材(2回目)	24時間以上	16時間以上	



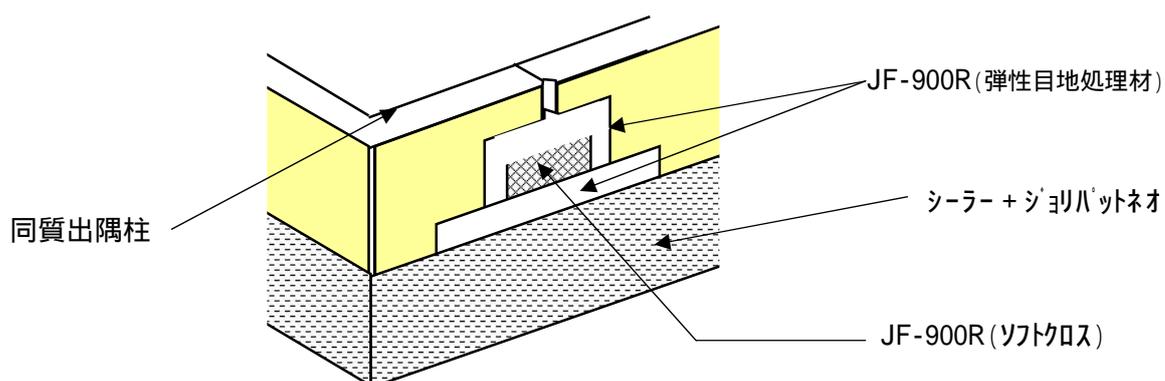
工程図(弾性目地処理材工程図 縦目地横目地交差部)

モエン大壁工法

出隅部における目地処理

- ・出隅部分の処理方法においては、同質出隅柱を使用する場合(出隅図 1)と、モエンパネルを追廻して納める場合があります。
- ・追廻で納める場合、目地処理の方法として、ソフトクロスをコーナーに巻きつける方法(出隅図 2)と、コーナー部分にソフトクロスの端部を合わせる方法(出隅図 3)があります。
- ・出隅部分を追廻で納めた場合、**シーリングの痩せに伴い、目地が目立ちやすくなります。**また、**角の直角の精度が出にくくなります。**
- ・**コーナー部分の仕上がりをきれいにするためには同質出隅柱の使用をお勧めします。**

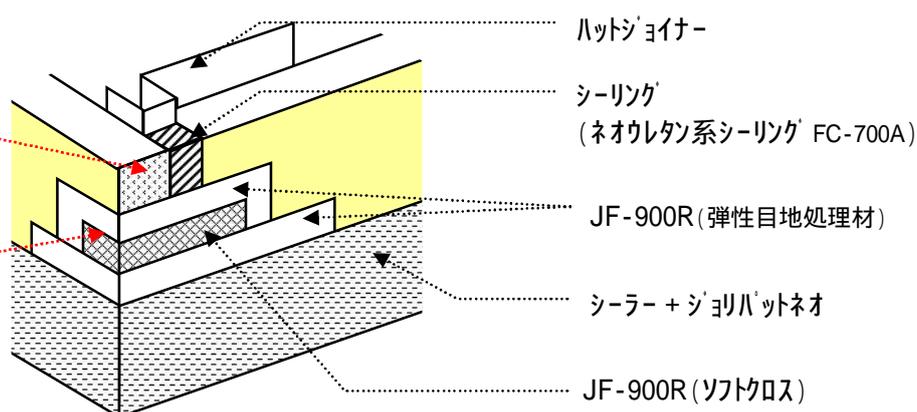
出隅図 1



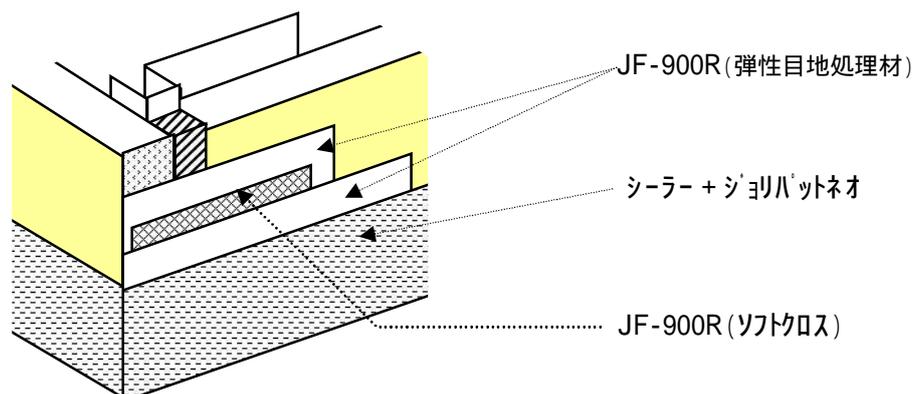
出隅図 2

サイディング切断面
モエンシーラー JF-1403 塗布
されていること

ソフトクロスの巻き付け部分
が少ないとソフトクロスが跳
ね上がり納まらない場合
があります。



出隅図 3



モエン大壁工法

4 - 7 大壁工法専用シ - ラ - JS-550C35

○弾性目地処理材 JF900R 及びネオウレタン系シーリング材 (硬化時間は 20 : 2 日、5 : 5 日) が硬化後、専用シ - ラ - JS-550C35 を全面に塗布する。

○JS-550C35 は、薄い青色に着色されており、その色にて完全に塗装されていることを確認する。

使用材料	工程間隔	塗布量
JS 550C35	2 時間以上 48 時間以内	0.05 ~ 0.1Kg/m ²

4 - 8 ジョリパットネオ JQ-650 又は JQ-700 施工 (下地処理 + 下塗り)

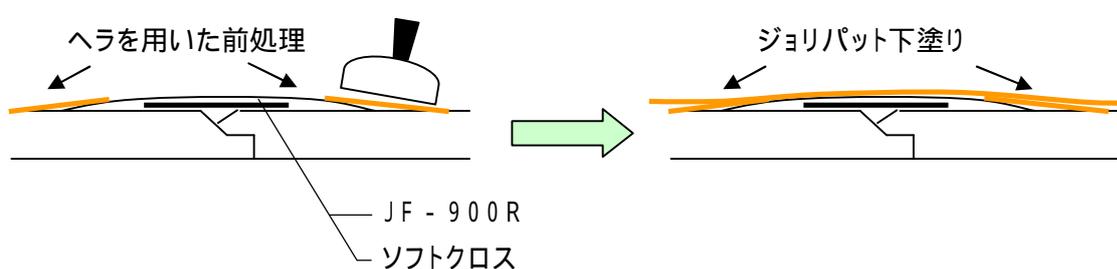
シーラー JS-550C35 が乾燥後、上塗りと同じ品番のジョリパットネオにて必ず、

下地処理 + 下塗り (アンダ - コ - ト: 塗布量 1.0Kg / m²以上) を行う。

(不陸が大きい場合は、塗布量にて平滑になるよう調整する。)

パテとボードの際で段差がある場合、斜光による目地影が発生するため注意する。特に下塗りで十分な塗布量が無い場合や吹付けで行う場合など、不陸調整できない事があるため、下塗りを行なう前に、下地処理としてパテとボードの際にジョリパットネオをヘラやコテ等で塗布し、際に発生する段差が少なくなるよう処理を行ってください。(ジョリパットネオの処理は 20cm 程度を目安とする。)

ヘラによる前処理



次工程は、下塗りの塗膜が完全に乾燥後行う。乾燥の確認は、下塗り塗布面のタック (べとつき) の有無により確認する。

4 - 9 化粧目地施工(1 - 2階部および2 - 3階部横目地・入隅部縦目地・開口部周辺目地)

下塗りが乾燥後、化粧目地施工箇所に沿って、養生テープを貼る。

養生テープは、仕上げパターン施工後、直ちに除去する。仕上げ塗材が乾燥した場合は、テープに沿ってカッターを入れながら除去する。



化粧目地処理例(入隅部縦目地)

化粧目地処理例(1-2階部横目地)



1-2階部および2-3階部の横目地は、ネオウレタンシーリングが充填された部位上に JF-900R を施し、必ず化粧目地仕様とする。

4 - 10 ジョリパットネオ JQ-650 又は JQ-700 施工 (上塗り)

施工の手引き(別紙資料)に準拠し、仕上げパターンを施工する。

塗板見本及び現場施工時のパターンの状態を、施主等の責任者の承認を得た上で施工する。

ジョリパットネオの塗装に関しては、目地部分を見えにくくする効果を持たしている為、必ず施工の手引きの塗布量を厳守する。

<大壁施工可能パターン(厚膜かつ表情が荒い仕上げ)>



JQ-650 アールテスタ



JQ-650 ワイルドランダム



JQ-650 プリウムロッシュ



JQ-650 2色ワイルドランダム



JQ-650 校倉



JQ-650 ラディーチェ



JQ-650 ブロックダムR



JQ-650 小粒ロックS



JQ-650 エンシェントブリック

モエン大壁工法



JQ-650 玉石エンシェントブリック



JQ-650 ミーティア



JQ-700 グラーデ



JQ-700 グラディウス



JQ-700 あやめランダムR



JQ-700 ロック



JQ-700 ガラクシア



JQ-700 ミックスサンド



JQ-700 ピオラ

4 - 11 施工後の検査

塗装完了後、塗り残しが無いか十分に確認する。

塗り状態が不十分な箇所については、状態に応じて適切な補修をする。

4 - 12 大壁工法塗装工事記録の記入及び提出

チェックリストを記入し、建設会社の承認後、アイカ工業の各店所に提出する。

4 - 13 施工後の清掃

塗装完了後、出来るだけ早く養生を除去する。

除去した養生、空缶、残材料は持帰り適切に処分する。

現場の清掃を行う。

コテ・ローラー等の施工道具洗淨水は、持ち帰り適切に処分する。

以上